

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第1回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成27年1月14日（水） 18時30分～20時40分
開催場所	四番丁スクエア 会議室
議 題	（1）会長及び副会長の選出 （2）高松市の創造都市政策について （3）創造都市推進懇談会の目的について （4）グループワーク
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	甘利委員、鎌田委員、香西委員、児島委員、坂口委員、高島委員、谷委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、真鍋邦委員、山家委員、岡田委員、田中委員、森委員、若宮委員
事務局	平田、佐野、溝渕、末澤、高田、中西、納田、南部、石川、松下、森近、前田、高尾、末原、杉野、永木
傍聴者	2人（定員5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

- 1 開会
- 2 大西市長からあいさつ
- 3 会長及び副会長の選出
人見委員を会長に、英委員を副会長に選出。
- 4 高松市の創造都市政策について
事務局からこれまでの取組について説明
- 5 U40（2期目）の目的について
事務局から説明
- 6 2つに分かれてグループワーク
「自己紹介」
「創造都市推進に当たり自身の立場でどう関われるか」
「U40での活動に期待するもの」

【人見グループ】

(委員)

創造都市に答えはないと思う。創造都市は目指すものではなく、個々人が得意分野（専門性）を徹底的にやることによって、客観的に見た人が創造的だと感じるものが創造都市だと思う。行政の役割は、規制緩和と場作り。情報を得たい人が、自分たちでは得られないものを提供することでは。

(委員)

ビジョンをもって自分のやりたいことを突き進んでやっている人が多くいる都市が創造都市である。

U-40に期待することは、ここで情報を得たものを自分から発信して周囲にも影響が与えられたらと思う。

(委員)

軸は何か、メインは何かと考えたとき、高松市は素材が豊富な魅力あるまちだと思う。これを単発のイベント等ではなく、持続可能な計画で進めることが必要だと思う。

(委員)

おもしろいこと・魅力的なことをやっている人が多くいて、外から見た人たちが判断したときに魅力的に感じたら、創造都市だと思う。

こどものコミュニケーション力のアップを通じて人材育成を行うことによって、創造都市につながることを期待している。

(委員)

10年ぶりに高松に戻ってきたら、おもしろいまちになっていた。創造都市に必要なものは「場」だと思う。好きなことやっている人同士がつながっていけば広がるはず。人と人とのつながり、専門性を持った違う分野の人同士がつながることが必要だと思う。

(委員)

創造都市は、文化芸術というイメージがあるが、そこにスポーツが加わっていることがスゴイことだと思う。

スター選手を生むことは大切だが、スター選手が地元に戻ってきたときの場、環境作りが急務だと感じている。U-40では、スポーツに対して順位とかではなく、楽しいスポーツの新しい切り口を見つけたい。

(委員)

高松は日本三大水城のひとつの海城町で、城が瀬戸内海に面しているまち、このかたちは世界に1つだと思っている。東洋のモンサンミッシェル。

高松駅から商店街（丸亀町以南）への動線を作りたい。外科手術的な都市計画。まちの賑わいと海のエネルギーが混在している。高松が瀬戸内の玄関口になるように。港湾法に縛られて、開発ができないので、これを緩和させて、50年先を見据えてまちづくりを目指したい。

(委員)

高松の人の心の地図を塗り替える必要がある。高松市の地図捉え方を、高松駅を中心とし、女木島、男木島、小豆島、五色台を含めた広い認識での街づくりが大切だと思う。北半分が海になり、街の中に、フェリーが通るイメージをすれば、もっと楽しくなるのでは。

(委員)

創造都市推進局と都市計画の担当部局が一緒になってまちづくりをすることが大切だ。前回の反省点は、アイデアがあり、やりたいことはたくさんあるが、個々の仕事もあり、なかなか実行にうつせなかった。今年は、本業を関わらせていきたい。自分がハブになって学生とU40をつなぎたい。

(委員)

自分たちがやろうとしていることは、既存の価値観の塗り替えである。そこに登場するのは行政で、既存のものの解釈（現行法）をどう柔軟にしていくかということが大切。既存のものと新しいもののせめぎあいのような場になればいいなと思う。誰もが経験したことのない時代を、どう乗り越えていくか。

(委員)

みんな忙しい。これもいいよねあれもいいよねってやっていると、ぼやんとしちゃう。U40の中でやるのは、頑張って2つとかに絞った方がいいと思うものの、全然興味のないテーマになる可能性もある。

例えば「高松まつり」や「メディアアート」。まつりは真剣にやるべき。年齢男女を越えて集まれる。まちでの共有体験の量で町への誇り度が違う。よさこいとか阿波踊り。香川にもうどんがある。2年に1回にして、松山 vs 高松で松松対決をする。ダービーマッチだから盛り上がる。人が動くから経済も動く。

「商店街再生」瀬戸芸。島から町にヒトが流れていない。日本一長い商店街を売りに島からマチへ人の流れをつくる。

コンパクトエコシティは、盤石な供給体制を前提にしすぎ。（冷凍保存と物流）ある日突然供給体制が崩れるかもしれない。小さくいろんな人が分散して、自分たちでエネルギーや食糧を自給できるほうがよいのでは。

【英グループ】

(委員)

今創造都市と言われている都市は、創造都市を目指そうとしてそうなったわけではない。まちの活性化を後からラベリングした感じになれば。創造的な少子化対策。シビックプライドの醸成。

(委員)

紺屋町カフェを1期目でやったように、U40から何か形に残したい。

(委員)

創造都市はかたちあるものではない。これをやったら創造都市になれるってものではない。市民がまちに興味をもって、関心がまちづくりに向くようにしたい。市民もいろいろできるまちに。新陳代謝も大切にして、20年先30年先を見据えたい。

(委員)

自分はIターン者であるが、高松は、人との距離感が大都市とは違う。

イベントがたくさんある。知ってもらうための事業をたくさんやったことに驚いた。市がやっていることを知ってもらう、生活に根ざしたものになるためのアイデア出しをしたい。

(委員)

民間の立場で、人が来てお金をおとしてもらう仕組みについても提言したい。

(委員)

首都圏の公共交通は安いけど、四国は高い。横浜の公共交通が安いのは、宣伝

広告費のもうけが大きい。

首都圏は車がいない。こっちは全然コンパクトじゃない。

高松の人は、都会に出るとすぐ讃岐弁を失う。さぬき弁を誇りに思っていない気がする。

(委員)

表現の仕方・見せ方について考えたい。

(委員)

元々ランドスケープが専門。美しい風景を次世代に残す→1次産業をおろそかにできない。

「創造都市」のぼやっと感。「食」を接点に伝えると一般の人にも伝わりやすいのでは。2016年の瀬戸芸テーマが「食」

市のエリアにとらわれず、広域で地域間連携＋多言語で情報発信することの大切さ。

(委員)

高松のリアリティ。「創造都市」という言葉と生活が結びつかない。そこをつなげ形にしていきたい。

(委員)

芸術祭やメディアアート祭で、県外アーティストや有名人を使うのは人集めをすることが目的なのか。地域活性化を地元の人だけでするとたこつぼ化してしまう。県民性や東京志向も影響しているだろう。芸術祭では、全員に門戸は開かれているけど、作品のクオリティなどを総合的に見て判断する結果、県内作家が少なくなっている。

7 アクションプランの発表

(委員)

高松まつり 脱・テキ屋

食のクリエイティブ

中央公園のハコモノ整理で電気・水道の整備（防災視点も入れて）。公園カフェは良かった。

(委員)

香川を越えて全国（世界）で映画を作る！

(委員)

すべての子どもたちへ「食べる」ことの大切さを伝える！！

「食べる」を伝える子どもたちが「食」を考える。興味を持つことが大切。

(委員)

市民1人1人の意識をクリエイティブに変える取組みを！

県民性。どうしたら市民に響くか。

(委員)

高松の名物駅弁を開発する！！

高松駅の駅弁を岡山で作っているという現状。地元のものを使って地元で作る。

(委員)

脱宿業

宿業だけでなく、食・交通・観光スポットなどお客様から聞かれることは多種多様。それぞれの業種で、専門以外の分野を知って連携していくようになれば。

(委員)

「まつたけ」の実行

まきこむ・つながる・たすけあう

(委員)

全ての子どもにICTを かけうどん税

こどもがワクワクするまちに。みんながまちを誇りに思う。ことばを捨てない。

(委員)

イベントではなく日常にクリエイティブを！！

イベントだけでなく生活者が日ごろからクリエイティブに。

(委員)

脱グッドデザイン 脱“県産品”

「県産品」という言葉に甘えている。自分たちがスモールビジネスでやっているどろくさいことをやっていきたい。

(委員)

まちにかえる

原点に戻る。自分たちのまわりでも、自分たち世代がそれぞれの分野で活躍して頭角をあらわしてきている。

(委員)

四国の美しいと美味しいものを世界に

「風土と food」市のエリアを越えて、広範囲で考えたい。「四国」

(委員)

U40×大学 はじめました

本業とみなさんをつなげていくことで、想いを実動にかえていきたい。

(委員)

地域の宝をもっと伝える！

(委員)

高松に「スポーツ+α」を生み出す

スポーツに関心のないひとにも興味をもってもらえるような仕組みを。

(委員)

2015年度中にリノベスクール@高松を開催する！

「商店街の活性化」

(委員)

常識を超える ①表現をつくる ②活動をつくる・応援する

『脱〇〇』という表現がいくつかある。
既存のものを越えたいという気持ちの表れでは。

8 閉会